備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

（平成21年度事業）

事業の概要

事業開始年度	昭和23年	根拠法令・例規等	予防接種法
総合計画 大項目 基本目標	02 健康でやさしさあふれるまちづくり	問合先 担当課（室）	保健課
総合計画 中項目 基本施策	02 健やかで生き生きしたまちづくり	問合先 職・氏名	健康係長・白髭由美子
総合計画 小項目 施策	01 母子保健（歯科保健を含む）	問合先 電話	６４－１８２０
事務事業名	03 予防接種事業	このシート作成に要した時間	5.0 時間

事業の目的

対象（誰・何に対して）	予防接種対象者（予防接種の種別により対象年齢が異なる）
目的（何のために）	感染の恐れがある疾患の発生及び蔓延を予防する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	各予防接種対象者の予防接種率が向上することで、疾患の発生及び蔓延を予防し市民の健康が増進する。

事業の実績

目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	予防接種事業	各予防接種の対象者に対し、予防接種手帳または予診票を配布して接種勧奨を行い、対象者が協力医療機関において個別接種を受ける。予防接種台帳の整備・管理及び協力医療機関、医師会への支払い事務を行う。	◎

決算額

決算額		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
事業費	直接事業費	千円	36,861	45,205	47,802
事業費	必要人員 人件費	千円	0.36人 2,348	0.31人 1,576	0.45人 3,038
事業費	事業費計	千円	39,209	46,781	50,840
財源	国県支出金	千円			2,269
財源	受益者負担	千円			
財源	繰入金	千円			
財源	市債	千円			
財源	その他（ ）	千円			
財源	一般財源	千円	39,209	46,781	48,571
受益者負担比率		%	−	−	−

結果指標

結果指標	結果指標名	単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
	乳幼児・児童の定期の予防接種件数	説明	定期予防接種（三種混合、二種混合、ポリオ、麻しん、風しん、MR、日本脳炎、BCG）		
結果指標	結果指標量	事業	2,695	3,616	3,527
結果指標	対前年比	%	−	134.2%	97.5%
結果指標	活動コスト	円	39,209,000	46,781,000	50,840,000
結果指標	単位当たりコスト	円	14,549	12,937	14,415

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
乳幼児の予防接種率（%）三種混合、ポリオ、麻しん、風しん、ＢＣＧ	目標値（A）	85	85	85	90
	実績値（B）	82.8	83.3	86.8	到達目標値
	達成率（B/A）	97.41%	98.00%	102.12%	90

成果指標設定の考え方・式や説明

接種人数÷対象者数×100　　※接種可能年齢が90か月未満である予防接種においての接種率の推移を比較

H19年度（2743人/3312人）　H20年度（2407人/2889人）　H21年度（2774人/3195人）

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事務事業の評価

妥当性の評価（市の関与の妥当性必要性／市民ニーズ）

妥当性評価 <A～E>：**A**

- ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

効率性の評価（コスト／手段）

効率性評価 <A～E>：**B**

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☑ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

有効性の評価（目的達成度／市民参画度）

有効性評価 <A～E>：**B**

- ☑ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☑ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☑ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

進行年度（H22年度）の改革改善内容

	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
状況			○				

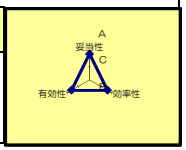
説明

22年4月から日本脳炎予防接種が1期初回のみ接種が再開となり、対象者に広報びぜん・ホームページ、幼児健診等で接種勧奨を行っている。麻しん風しん混合予防接種の接種勧奨については、引き続き関係機関の協力を得ながら接種率の向上を目指していく。また子宮頸がんワクチン、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン等の任意接種についても、費用対効果を検証した上で実施を検討する。なお21年度は新型インフルエンザの影響を受け、市として1歳～中学3年生に対し助成金の支給を行ったが、22年度も流行の恐れがある場合、助成金支給の検討と積極的な接種勧奨を行う必要がある。

総合評価

予防接種法に基づいた事業で市町村での実施が義務づけられており、感染症予防、公衆衛生の向上及び増進のために実施する必要がある。個別通知や乳幼児健診、広報びぜん・ホームページ等でのきめ細かい接種勧奨を頻回に実施することで、接種率が向上しており、有効性が高まっていると考える。

評価区分 <A～E>：**B**



平成23年度の方向性 及び 取組目標

	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
方向性			○				

取組目標

近年、予防接種法の改正がめまぐるしく行われるため、対象者が接種の機会を逃したり、混乱を招いたりしないよう、県や医師会等の関係機関の協力を得ながら接種勧奨を行っていく。また委託料や自己負担額を適宜見直していく。